

O-084 (2013/11/17)

# 沖縄の高校生の学校や近隣における ソーシャル・キャピタルと健康関連行動

○高倉実(琉球大学医学部)・宮城政也(琉球大学教育学部)・  
上地勝(茨城大学)・栗原淳(佐賀大学)・濱畑有衣子・中尾言里  
(琉球大学大学院保健学研究科)

第60回日本学校保健学会(東京:聖心女子大学)

本研究はJSPS科研費23300246の助成を受けたものです。

# 背景

---

- ▶ 最近、健康の社会的決定要因としてソーシャル・キャピタルが注目を集めている。
- ▶ **ソーシャル・キャピタルとは、一般的には、人々の中の協力を容易にさせる信頼、互酬性の規範(認知的要素)、ネットワーク(構造的要素)といった社会的資源のことで、個人および集団レベルの特性として捉えられる。**
- ▶ **ソーシャル・キャピタルが豊かな社会は、健康に関する規範も高くなり、健康情報が伝わりやすく、人々が助け合い、心理社会的ストレスも少なくなるために、人々の健康状態も良好になると考えられている。**
- ▶ **この仮説が、青少年の場合にも当てはまると考えても、必ずしも的外れではないだろう。**

## 背景2

- ▶ ソーシャル・キャピタルは社会集団内で醸成されることから、拠り所となる準拠集団の単位に留意する必要がある。
- ▶ 大人を対象とした研究では、居住地域や職場組織などが集団単位として用いられてきた。
- ▶ 青少年の場合、学校や近隣などの社会的空間は彼らの日常を反映した重要なコミュニティとみなすことができる。しかし、青少年のソーシャル・キャピタル、特に学校と近隣におけるソーシャル・キャピタルのいずれが、どれくらい健康指標と関連しているかについての知見は不足している。
- ▶ **本研究は高校生を対象に個人の認知レベルからみた学校および近隣における認知的ソーシャル・キャピタルと健康関連行動との関連を検討することを目的とした。**

# 方法

---

## ▶ 対象

- ▶ 沖縄県全域の全日制県立高等学校全59校から、各地区の学校数に応じた確率比例抽出により普通科校20校，専門学科校10校の計30校を抽出し，各校の各学年1学級に在籍する生徒3,386名を標本とした。調査当日の欠席者162名を除く3,224名から調査用紙を回収した。そのうち，回答拒否190名を除く**3,034名**を対象とした。

## ▶ 方法

- ▶ 学級における自記式無記名の質問紙法により調査した。
- ▶ 調査期間は2012年10-12月であった。
- ▶ 琉球大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得た。

# ソーシャル・キャピタル項目

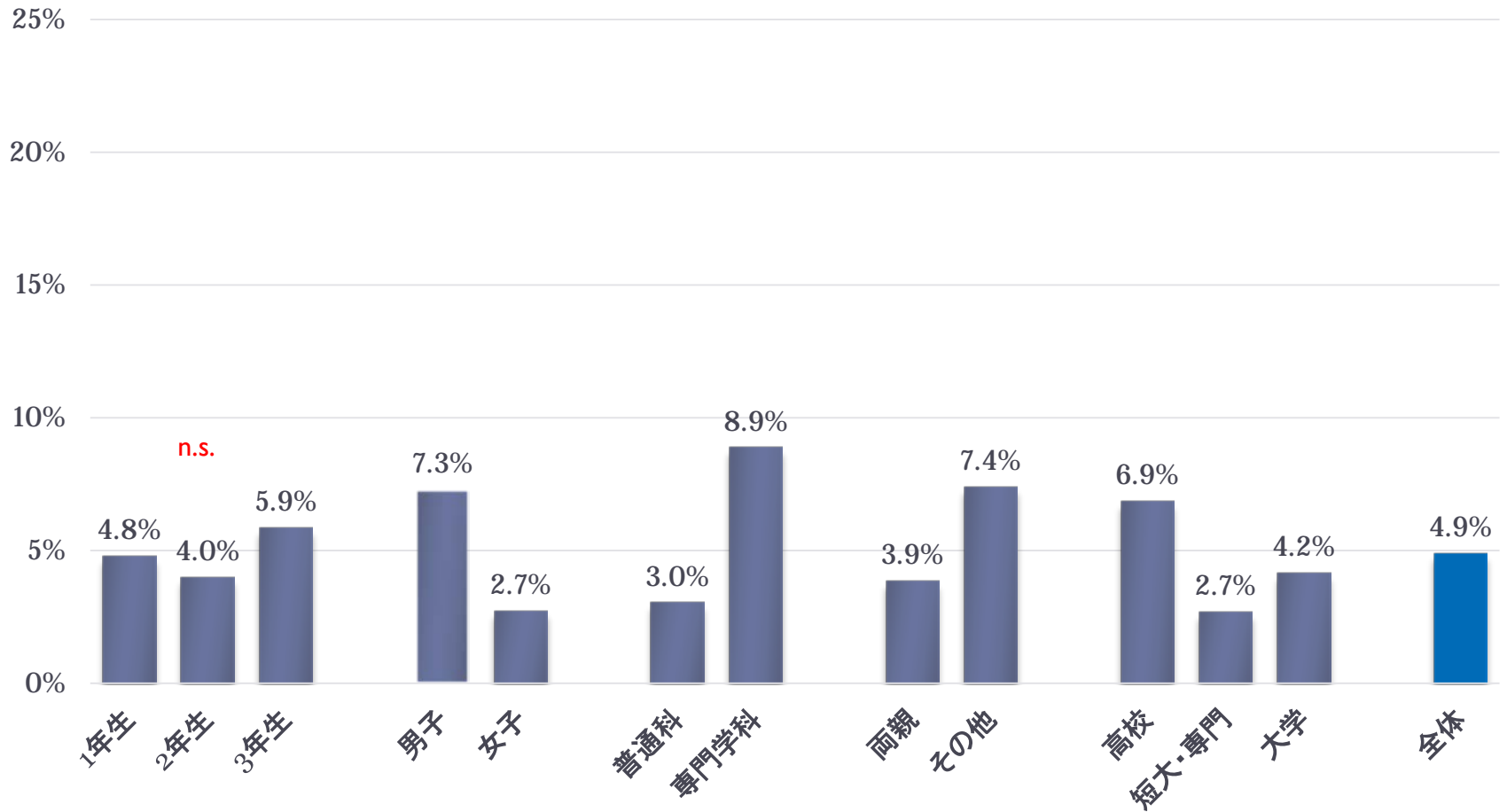
- ▶ **学校における認知的ソーシャル・キャピタル(学校SC)(7項目 5件法 7-35点)**
  - ▶ 私の学校の生徒は、親切でたよりになる
  - ▶ 私の学校の生徒は、お互いに助け合う
  - ▶ 私の学校の生徒は、信頼できる
  - ▶ 私の学校の生徒は、多くの場合、他の人の役に立とうとする
  - ▶ 私の学校の生徒は、お互いに理解している
  - ▶ 私の学校の先生は、信頼できる
  - ▶ 私の学校の先生は、親切でたよりになる
- ▶ **近隣における認知的ソーシャル・キャピタル(近隣SC)(5項目 5件法 5-25点)**
  - ▶ 近所の人々は、お互いに助け合う
  - ▶ 近所の人々は、多くの場合、他の人の役に立とうとする
  - ▶ 近所の人々は、親切でたよりになる
  - ▶ 近所の人々は、お互いこうまくいっている
  - ▶ 近所の人々は、信頼できる
- ▶ 因子的妥当性, 併存的妥当性, 予測的妥当性は確認済み(2012)
- ▶ 内的整合性( $\alpha$ 信頼性係数) = 学校SC 0.94, 近隣SC 0.92
- ▶ 安定性(再テスト信頼性係数) = 学校SC 0.67, 近隣SC 0.81

# 健康関連行動項目

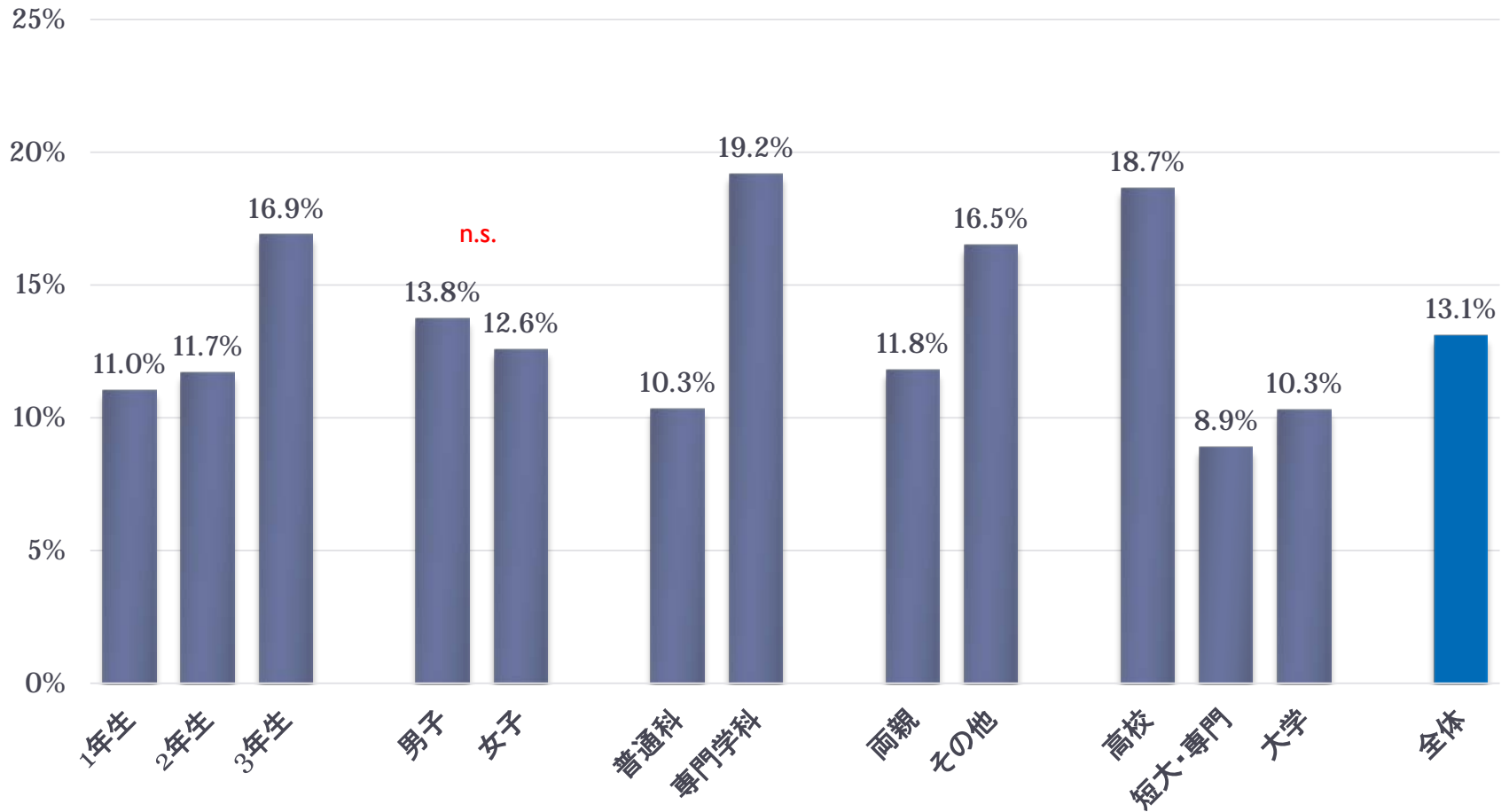
---

- ▶ **米国 CDC Youth Risk Behavior Survey 項目**
  - ▶ 現在喫煙(過去30日間に1日以上喫煙した)
  - ▶ 現在飲酒(過去30日間に1日以上飲酒した)
  - ▶ 性交経験(これまで性交経験あり)
  - ▶ 身体活動(過去7日間に60分以上運動した日が5日以上)
  
- ▶ 性別, 学年, 学校種, 家族構成, 親の学歴を調整変数とした。

# 現在喫煙者(過去30日間に1日以上喫煙した)の割合

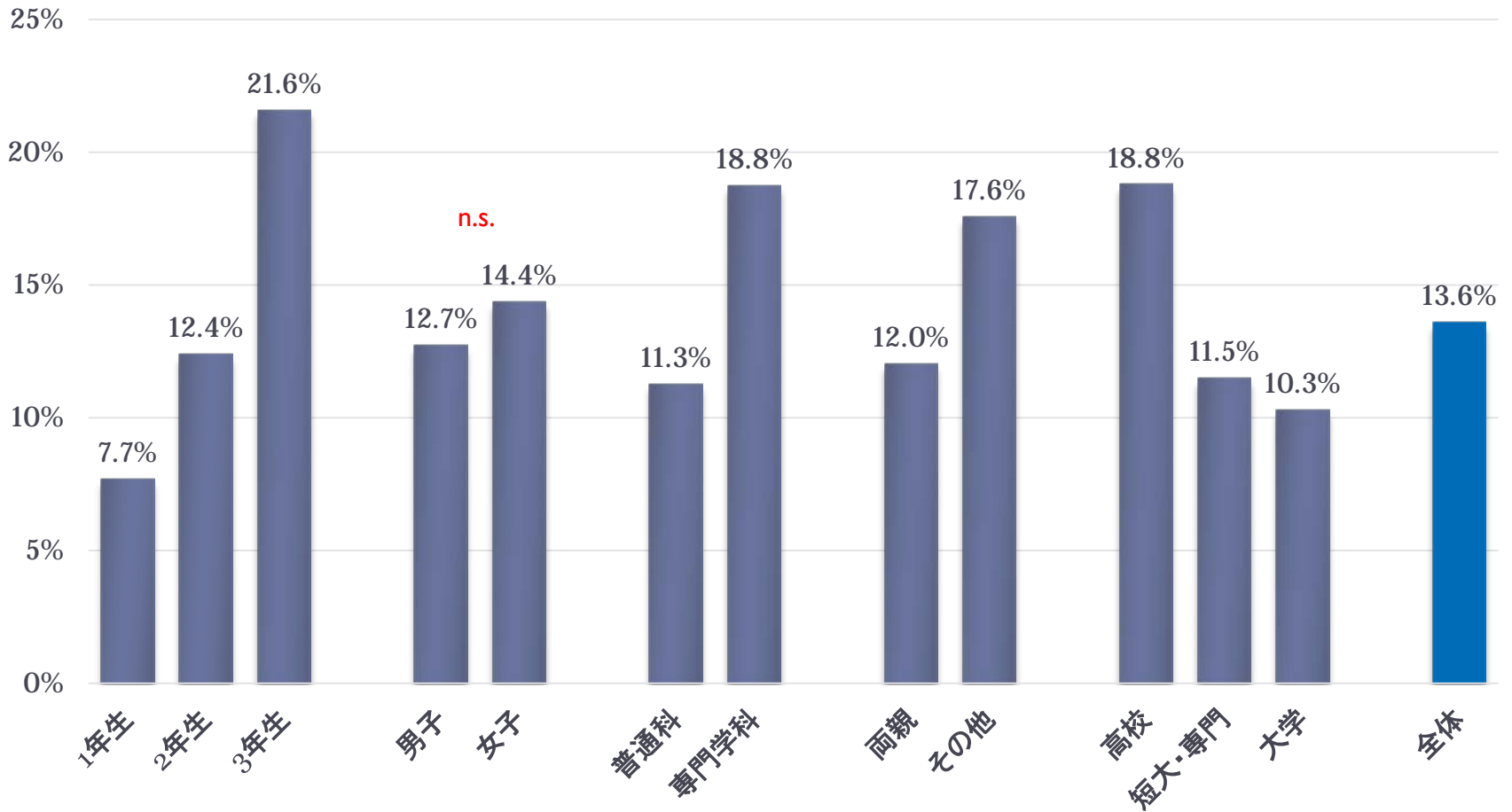


# 現在飲酒者(過去30日間に1日以上飲酒した)の割合

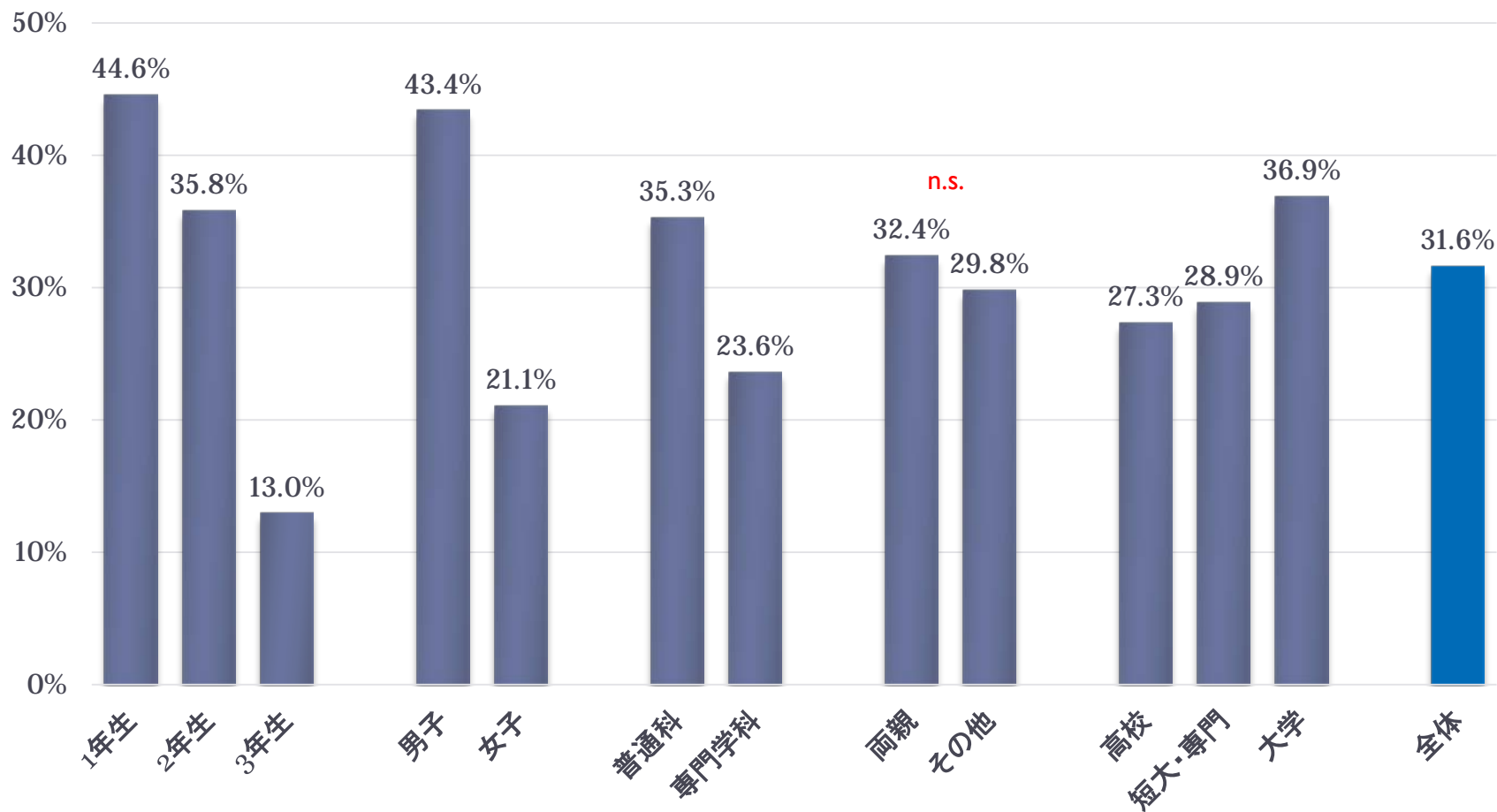




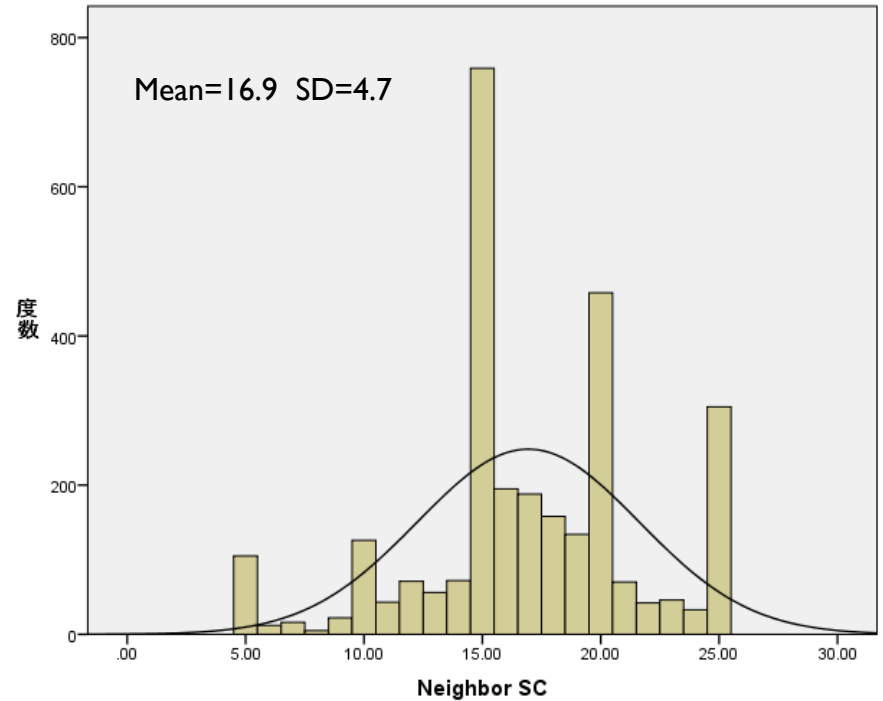
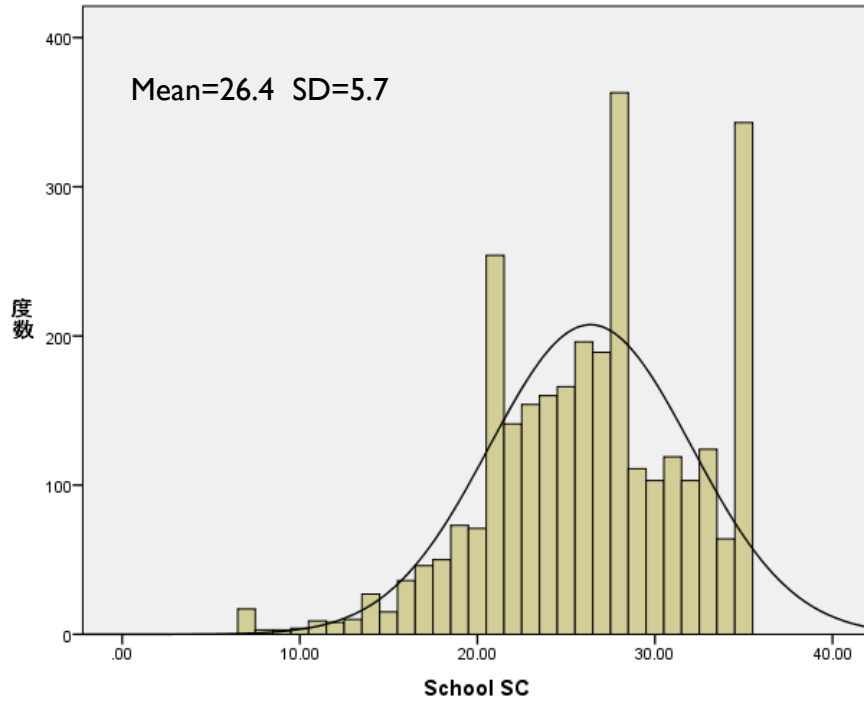
# 性交経験者(これまで性交したことがある)の割合



# 身体活動者(過去7日間に60分以上運動した日が5日以上ある)の割合

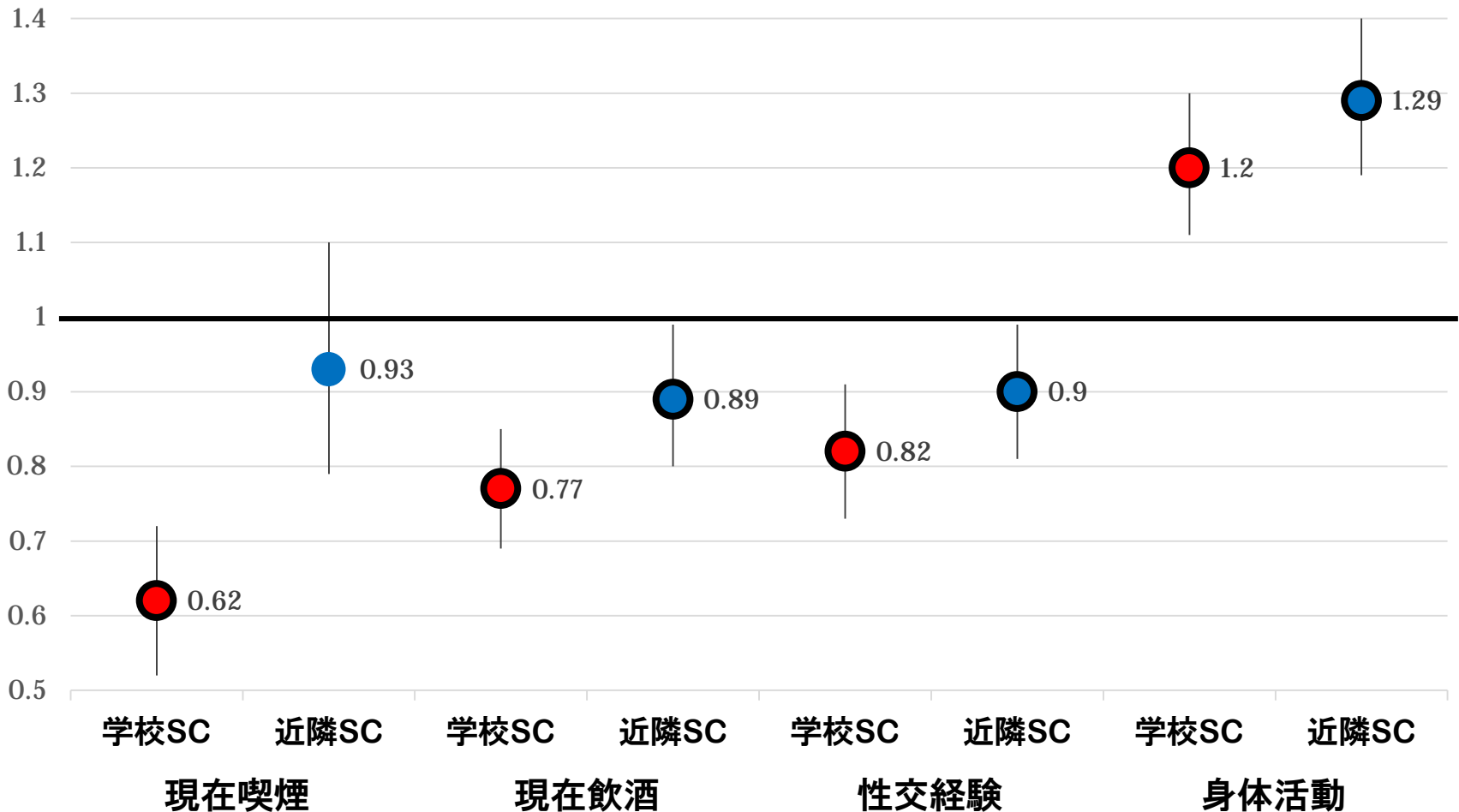


# 学校・近隣ソーシャル・キャピタル得点の分布



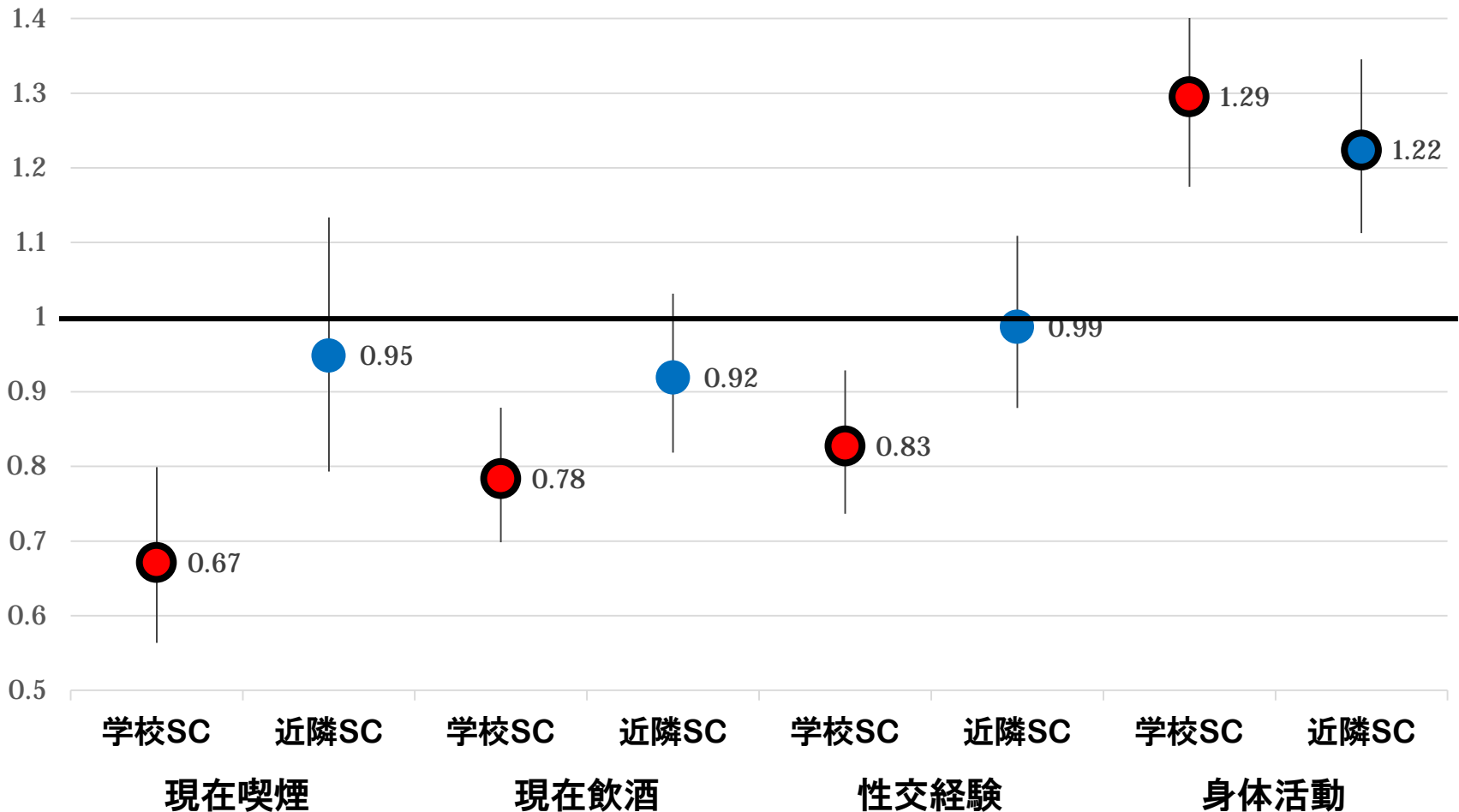
# 学校・近隣SCと健康関連行動との関連(粗オッズ比)

OR (各SCが1SD増加した場合)



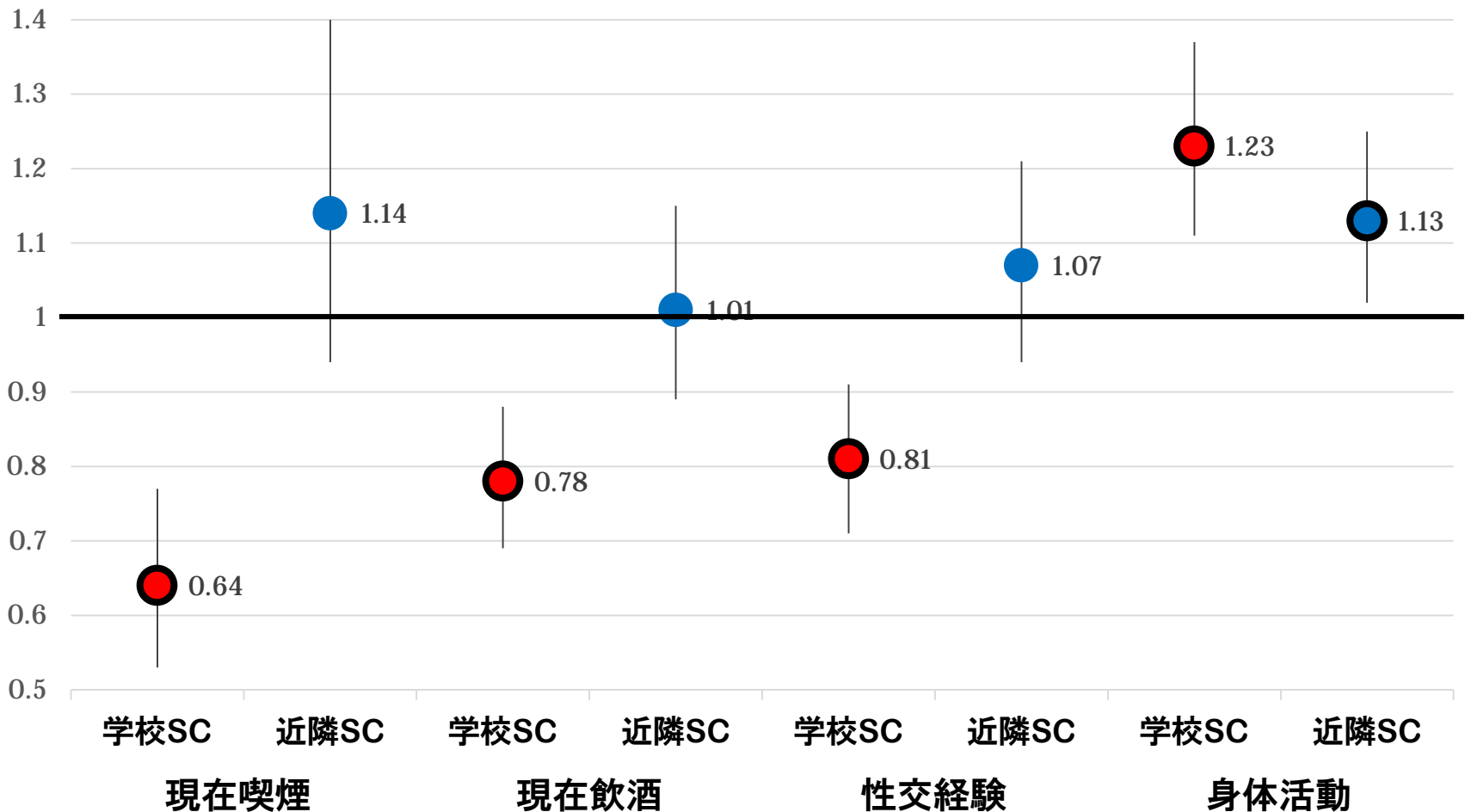
# 学校・近隣SCと健康関連行動との関連(調整オッズ比)

OR (各SCが1SD増加した場合. 性, 学年, 学校種, 家族構成, 親の学歴を調整した)



# 学校・近隣SCと健康関連行動との関連(調整オッズ比)

OR (各SCが1SD増加した場合. 性, 学年, 学校種, 家族構成, 親の学歴, **両SCを同時投入し**, 調整した)



## まとめ

---

- ▶ 学校SC(級友や先生の信頼や助け合い)は、健康関連行動と総じて予防的な関連がみられ、学校SCレベルの高い生徒は健康的な行動をとる傾向にあった。この関連性は属性などの調整変数を投入した後も頑強であった。
- ▶ 近隣SC(近所の人々の信頼や助け合い)も、同様に、健康関連行動と予防的な関連を示したが、調整変数投入後は、身体活動のみ有意な関連が残り、その他の関連性はすべて消失した。
- ▶ 近隣SCの効果は、学校SCや属性の影響によって相殺されたことから、その関連強度はあまり強くないと考えられる。

## まとめ

---

- ▶ **学校SCは、近隣SCよりも強く健康関連行動と関連しており、学校における高い社会的凝集性が集団的効力としてうまく機能している可能性がある。例えば、健康に対する規範意識が高いことによって、健康行動をとりやすくなる一方、不健康行動に対して社会的統制が働くなど。**
- ▶ **以上のことから、高校生の健康関連行動改善にとって、学校SCは重要な役割を果たすと思われる。**